

令和 6 年度 県立結城第一高等学校自己評価表

目指す学校像	校訓「自彊不息」(じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと)を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 帰国・外国人生徒の教育の充実を図るとともに、日本文化や異文化への理解を深めた国際感覚豊かな人材を育成する学校 (6) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る学校	
三つの方針	三つの方針 具体的目標	
三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	校訓「自彊不息」(じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと)を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の確実な定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 帰国・外国人生徒の教育の充実を図るとともに、日本文化や異文化への理解を深め、国際感覚豊かな人材を育成する学校 (6) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る学校
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善を図るとともに、習熟度別学習や課外学習等のきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。また、AL 型授業を推進し生徒の自主的・意欲的な学習態度を醸成し、学習意欲の向上を図る。 (2) 組織的かつ個に応じた生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して規範意識を醸成し、豊かな心の教育を一層推進する。 (3) 特別活動や体験活動等の活性化により、精神と身体の健全な成長を図る。 (4) 各学年に応じた進路行事や資格取得指導等を通してキャリア教育を推進するとともに、生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す。 (5) 特別の教育課程による日本語指導や生活指導の充実を図り、日本の伝統や文化を尊重するとともに他国の文化も尊重できる国際感覚を身に付ける。 (6) 保護者・地域社会等との連携・協力のもと、情報交換や交流を密にしながら、地域に根ざした信頼される学校づくりを推進する。 (7) これまでの働き方を見直し、自らの授業改善に取り組むとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○自分の能力を発揮し、進路実現を目指し、日々努力する生徒

別紙様式 2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
校訓である「自彊不息」を目標に、教職員及び全生徒の共通理解のもと、教育活動を実践した結果、落ち着いて授業及び学校行事等に取り組む生徒が増えた。 生徒一人一人の心身の更なる成長と希望進路の実現に向けて、引き続き基礎・基本の確実な定着及び基本的生活習慣の確立に努め、地域から愛され、信頼される学校づくりに邁進していく。	(1) 基礎・基本の確実な定着学習意欲の向上	① 教育内容や指導方法等を工夫・改善し、きめ細かな個に応じた「わかる授業」を実践する。 ② 各自の目標設定を明確にし、達成に向けて努力することを支援する。 ③ 反復学習等により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、A L 型授業を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組む態度を培う。 ④ 自分の考えを整理し記述する（書く）、伝達する（話す）、他の発言を傾聴する等の指導を充実させ、各自の言語活動や自己表現能力を育成する。 ⑤ 個別指導・習熟度別指導・課外指導等を通して、学習への自信や学習意欲の向上を図る。 ⑥ 予習・復習や課題等を主体的に行うことを通して、学びの習慣化を促す。	B
	(2) 基本的生活習慣の確立規範意識や豊かな心の育成	① 服装頭髪指導を通して「制服を美しく着る」「身だしなみを整える」ことを強化する。 ② 授業や集会時における心得として、礼法や話を聞く姿勢を育成する。 ③ 挨拶や言葉遣い・態度等の礼儀作法を身に付けさせる。 ④ 公共マナー、社会規範や校則等のルールを遵守する意識を培う。特に SNS について正しい理解と使い方を習得させる。 ⑤ 道徳教育や講話、読書等を通して、人を思いやる心、協力しあう心、感動する心等の豊かな心を育成する。 ⑥ 個別面談を密にし、保護者・スクールカウンセラー・外部機関等と連携・協力して、学校生活や進路、心の問題等への対応を適切に行う。	
	(3) 特別活動・体験活動等の活性化	① ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の集団活動を通して、心身の調和と個性の伸長を図るとともに、他を思いやり尊重する等の社会性を育成するとともに寛容な心を育む。 ② 文化祭や体育祭、クラスマッチ等の学校行事を通して、協力する心や個々の責任感を育む。 ③ 生徒の自主的・自発的な活動を促進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る。 ④ キャリアパスポートを用いて生徒と対話的に関わることによって、生徒の成長を促し、自己実現に向けて系統的な指導を行う。	B

別紙様式 2 (高)

	(4) 希望進路の実現望ましい勤労観・職業観の醸成	① 早期から進路意識の醸成を図るとともに、自己の適性を理解することにより、進路選択でのミスマッチや早期離職の防止に努める。 ② 生徒の進路希望を把握し、生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的なキャリア支援をする。 ③ 外部講師による講演会や企業見学・インターンシップ等を通して、望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。 ④ 社会人としてふさわしい言葉遣いや礼儀作法、身だしなみを身に付ける ⑤ 面談や面接指導を通して、生徒の進路希望の実現を支援する。 ⑥ 外国人生徒向けの進路講演会やインターンシップなどを通して、日本での就学・就業に向けて支援する。	A
	(5) 保護者や地域社会等との連携・協力	① 学校の情報を積極的に、かつ分かりやすく発信するとともに、保護者や地域社会等からの意見等を集約・検討し、教育活動の魅力を高めるなどして、一層の理解と協力を得られるようにする。 ② 中学校訪問を密にし、情報交換を通して連携・協力を依頼し、中学校や地域社会等に信頼される学校を目指す。 ③ ボランティア活動や地域の行事には積極的に参加し交流を深め、地域社会に根ざした学校を目指す。 ④ 多文化共生委員会を中心に関係機関と連携・協力を図るとともに外国人生徒・保護者の日本における学校教育についての理解を深め、円滑な学校生活が送れるようにする。	A
	(6) 働き方改革	① 勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを適切に運用する。 ② 業務の役割分担を見直す。 ③ 適切と言えない業務等を削減する。(部活動に係わる業務全般を含む。)	B
	(7) 授業改善	① 生徒による授業評価を活かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともにわかる授業展開を目指す。生徒による授業満足度 (KPI) で肯定的評価 3.2 以上を目指す。 ② 授業改善推進チームを中心として授業改善に向けた検証と研修を重ね、主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。 ③ 総合的な探究の時間において教科等横断的な取組を進める。	B

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科指導		学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟の程度を考慮した学習目標を設定し、年間指導計画に沿った「わかる授業」を展開しながら、各生徒の表現能力を育成する。	A	A	・わかる授業を目指し、更なる授業改善を推進し、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る。
			教員相互の学習指導の充実を図るために、教科間及び全職員対象に授業を公開し研修の場を設ける。	B		
		授業態度の改善を図る。	指導に適した教育環境・授業に取り組む体制を整え、1時間1時間の授業の大切さを自覚させて積極的に臨ませる。	A		
			学習意欲や学力に課題のある生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の補講を実施するなどして個に応じた指導をし、学習意欲を喚起させる。	A		
教科	国語	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた授業形態の実施やプリント教材の活用など、適宜授業内容を工夫する。更に、小テスト等を複数回実施することで基礎・基本の確実な定着を徹底する。	A	A	・学習指導要領の内容に照らし、適切に評価できるよう授業の改善に努めること。 ・ICT を効果的に活用し、教材や発問を工夫することによって、生徒の興味関心を喚起すること。 ・外国人生徒支援の観点を念頭に置きつつ TT や個別指導などを実施しながら、基礎基本の定着を図ること。
			副教材を活用し、長期休業期間の課題として設定した上で、定期的に漢字テストを実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。また、文章を書く機会を定期的に設け、表現力の向上に努める。	A		
		学ぶ姿勢の確立とわかる授業の推進をする。	学習意欲に課題のある生徒に対して、計画的な指導を行う。	A		
			授業参観や公開授業など、研修の機会を利用して自己研鑽に努め、授業を創意工夫する。	B		
			ティーム・ティーチングでわかる授業を展開し、生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。	A		
		漢字検定試験を奨励する。	漢字の読み書きに重点を置いた指導を通じて、漢字学習への意欲を喚起する。	B		
			漢字検定受検の積極的な受検を促し、国語への興味・関心を喚起する。	A		
	地歴・公民	基礎・基本の確実な定着を図る。	基礎的・基本的な知識の理解を通して地理・歴史的素養を養う。また、定期考査や小テストなどを実施して、知識の定着と習得を確認する。	A	B	・電子黒板の多用 ・定期考査の平均点アップ ・現状生徒に合った授業展開
		学習指導の工夫を図る。	幅広い教養を身に付けられるように、教材や資料の利用を工夫し、生徒が理解しやすい授業を行う。生徒の主体的な活動を促すと共に、生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。	B		
		学習意欲の向上を図る。	生徒が主体的・対話的な深い学びを実現できる指導体制を構築するとともに、生徒が意欲的に学習に取り組める評価を実施する。	B		
	数学	基礎・基本の確実な定着を図る。	学び直しの機会を設け、演習時間を十分に確保するなどして、基礎・基本の確実な定着を図る。	A	A	・考査前の勉強会や学期ごとの補講を予定通り実施し、効果を上げることができた。 ・今年度は数学を受験科目とする大学進学者がいなかった。次年度は指導の必要がありそうである。
			定期的にノートやプリントを点検し、望ましい授業態度の習慣を身に付ける。	A		
			定期考査前の放課後に実施する勉強会や、長期休業中の補講を活用して、基本的な内容の理解を深める。	A		
			進学希望生徒（大学進学・医療系）に対して必要な課外を行い、学力向上を図る。	B		
			各種研究会・授業参観等に参加するとともに、教科内でも積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について教科内で研究協議を行い、指導力を高める。	B		

別紙様式 2 (高)

教 科		わかる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	少人数による習熟度別授業やティーム・ティーチングの授業を展開し、きめ細かな指導を行う。また、その成果と課題を明確にし、改善を図る。	A		
			生徒同士が教え合う環境を作るなど、生徒が主体的に授業に参加できるよう指導の方法を工夫する。	A		
			生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。	A		
			生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。	A		
	理 科	基礎・基本の確実な定着を図る。	生徒の実態に合わせた教材を開発し、生活に役立つ基礎的な学習内容の定着を図る。	A	A	・主体的・対話的で深い学びの実現のため、身近な題材をもとにした実験・観察を積極的に取り入れた授業の実践に力を入れる。 ・一人一台タブレット端末を活用した I C T 教育をより推進する。
			長期休業日や放課後の時間を利用し、成績指導を実施する。	A		
		学習指導の工夫に努める。	実験・観察・実習を積極的に行い、生徒が意欲的に学習活動できるようにする。	B		
			授業参観、公開授業等で学習指導の充実を図り、授業研究を推進する。	B		
			各種の発表会や研修会に積極的参加し、その結果を教科内で報告するとともに、自己研鑽に努める。	A		
		わかる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	化学基礎では 2 人の教員によるティーム・ティーチング. の授業を展開し、きめ細かな指導を行う。また、化学基礎・地学基礎・生物基礎でタブレット端末を用いて、模擬体験やデータ処理を取り入れ、主体的な学習を推進する。	A		
			生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。	A		
	保 健 体 育	基礎体力の向上を図る。	体力向上のための短時間走を毎時間実施する。自己の体力の現状を理解させ、体力を高める方法について学んだことが実践できるようにする。	B	A	今年度、新たな取り組みとして年度初めに 1 学年を対象に通訳をお願いしてのオリエンテーション及び集団行動を実施した。効果的な授業運営につながったと実感しているので来年度も継続していく。授業では生徒のルーツに関係なく、教え合い・学び合いを通して多くの生徒がスポーツの楽しさや喜びを感じられた。その結果として授業満足度においても肯定的評価が 3.2 以上を取ることができた。
		集団行動の徹底に努める。	集団行動の意義や目的を理解し、集合・整列・挨拶など、自ら考え行動できる態度を養う。	A		
		スポーツの楽しさや喜びを味わう。	生徒の実態に応じてグループ編制やルールに工夫を凝らし、誰もが運動する楽しさや喜びを味わえるようにする。また活動を通して他を尊重できる態度や協力し合える態度を養う。	A		
		わかる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	教科内で積極的に授業観察を実施し、授業内容・方法等について協議を行い、指導力を高める。	A		
		健康、安全への理解を深める。	科目「体育」「保健」を通して、自らの健康や安全に係る正しい知識を理解し、日常生活や学校生活において実践できるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

教 科	芸 術	芸術の良さや美しさを味わい、芸術を愛好する心情を育てる。	各単元において、興味・関心をもたせる工夫をする。また、知識・理解を高めるため必要に応じて ICT 機器を活用する。	B	A	Wi-Fi 環境がないため、ICT 活用では限られた中でしか行うことができないが、必要に応じて教室を使用するなど工夫してタブレットを使用し、より生徒の理解を深めることができた。また授業満足度では、3.2 を超えることができた。
			鑑賞の指導を通して、豊かな感性を育むとともに心の教育の醸成を図る。	A		
		主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。	生徒の実態にあった教材を精選し、指導内容の工夫・改善を図る。	A		
			タブレット端末をはじめとした ICT 機器を利用し、生徒の実態にあった指導を行う。さらに生徒自ら課題に向き合い、自分の力で解決する力を育てる。授業満足度 (KPI) で 3.2 以上を目指す。	B		
	英 語	学習目標を明確にし、指導を工夫する。	生徒の習熟度を考慮した学習目標を設定し、CAN-DO リスト、年間計画を踏まえた「わかる授業」を展開する。A L T とのティーム・ティーチングでは、手法を工夫し、英語に対する関心を高め、生徒の表現能力の向上を図る。	B	A	・ ICT 活用による授業内での添削を導入する。 ・ 言語活動の更なる活性化が必要である。 ・ TT 授業を効果的に活用し、生徒の個に応じた指導の更なる充実を図る。 ・ パフォーマンステストの充実を図る。 ・ 生徒へのフィードバックをさらに増やす。
		基礎・基本の確実な定着を図る。	苦手意識のある生徒でも前向きな姿勢で学習に取り組めるよう指導を工夫し、支援するなどして基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
			学習につまずきのある生徒に対して、放課後の個別指導や長期休業中の指導等を実施することにより、基礎・基本の確実な定着を図る。	A		
		個に応じた指導をする。	指導に適した教育環境・授業に取り組む態勢を整え、授業の大切さに対する自覚を促し、積極的に授業に臨めるようにする。また、ノート・プリントなどの提出物を随時確認し、学習の理解度を把握し、自主的な学習態度を身に付ける。	A		
			少人数授業や習熟度別授業、ティーム・ティーチングを展開し、個に応じた指導を通して、基礎・基本の確実な定着や応用力の向上を図る。	A		
			授業内容の確認課題・週末課題に取り組むことで、英語を積極的に学ぼうとする姿勢を育成する。	A		
			課外も含めて進学や資格取得に向けて個に応じた指導をすることで、意欲の高い生徒をより伸ばせるようにする。	A		
			生徒による授業評価を活かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともにわかる授業展開を目指す。生徒による授業満足度 (KPI) で肯定的評価 3.2 以上を目指す。	A		

別紙様式 2 (高)

教 科	家 庭	わかる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	生徒による授業評価を活かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともにわかる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.2以上を目指す。	A	A	・KPI3.9 を達成することができた。 ・視覚教材やワークシートの改善を継続する。 ・生活課題を自分事として捉えることができるように、発問や活動を工夫する。 ・生徒の評価に活かし、学習記録に残す課題をより明確にする。
		生活的自立のために必要な知識および技術の定着を図る。	副教材の資料集、ニュースや新聞および ICT 機器等を活用するとともに体験的な学習を実施し、より理解しやすい授業となるように工夫する。	B		
		実習では、個に応じたきめ細かな指導をする。	生徒による授業評価を活かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともにわかる授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価 3.2 以上を目指す。	A		
		自身の生活や将来について考え、自らの生活を創造しようとする姿勢を育成する。	製作物に関しては、完成・提出することを重視し、作業進度に応じて個別にきめ細かな指導をする。実習工程を、パワーポイントと手元の実習日誌の両方で確認することができるようにする。	A		
	商 業 ・ 情 報	基礎的な知識・技術を身に付けさせる。	教科等横断的な取組を進め、生活で起こりうる課題について幅広く深く考え、生活における意思決定の選択肢の幅を広げることができるようにする。	B	B	外国籍生徒の増加に伴い、教員の負担が増大。実習科目で一人授業をやっているのは商業だけで、人員の増加が求められる。 成果としては、3 学年の検定合格率が前年比＋500%となった。また、指導や評価方法の視覚化により、授業内容や評価が明確化された。 展望としては、外国籍生徒の対応を含め、授業の効率化を図る。そのために、ティーム・ティーチングを希望するなど、教員の負担を軽減する仕組みを検討する。教科指導の流れをマニュアル化し、共有を強化する。
		情報社会に積極的に関わる態度を育成する。	ビデオ等を活用して、情報モラルの教育を積極的に推進する。	A		
		基礎・基本の確実な定着を図る。	ビジネス基礎、情報処理においては、基礎的基本的な学習内容の定着を図る。	B		
		資格取得を奨励する。	ビジネス基礎においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度を育成する。	B		
			情報処理においては、資格取得を目標に意欲的に取り組む態度や応用力を育成する。	B		
		わかる授業の展開と学習指導力の向上を図る。	課題・作成物の記録・振り返りを継続的に行い、生徒が意欲的に取り組める授業展開を行う。	A		
			教材の共有や指導方法の研究を推進し、わかる授業の展開に努め、授業満足度の向上を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

教務	学習目標を明確にする。	各科目の単元ごとに目標を設定し、毎時の授業ポイントを踏まえて指導する。	B	A	・授業に関する研修、相互授業参観や公開授業等を充実させ、生徒の主体性を引き出す授業を目指す。 ・校務支援システムより有効的に活用するため、入力の方法や注意点等の講習などを充実させる。 ・業務のＩＣＴ化を一層進め、業務の効率化を目指す。 ・教務部員の仕事の分担を工夫し、業務負担の平均化を目指す。
		基礎・基本の確実な定着を図るために繰り返し学習することを怠らず、小目標の習得を重ねて、生徒に学ぶ喜び・知る喜びを感得させる。	A		
		生徒の習熟の程度と授業の進捗状況を常に意識し、必要に応じて内容・進度等の微調整を図る。	A		
	授業研究を推進する。	校内授業担当者の研修として、授業参観・公開授業等を実施し、相互の学習指導の向上に役立てる。	B		
		生徒が主体的・対話的で深い学びができるよう、授業の形態や内容を工夫する。	B		
	学習環境を整える。	物的環境の整備だけでなく、授業におけるマナー指導等を大切にし、心的面からも自ら意欲的に授業に臨む体制を整える。	A		
	教育活動の公表に努める。	充実した内容のホームページや広報誌の更新・発行を通して、外部への広報活動を推進する。また在校生の状況・卒業生の動向等の報告を兼ねて、中学校訪問を充実させる。	A		
	学校情報セキュリティの向上に努める。	人的・物的両面から個人情報の保護を徹底できるようにする。	A		
	タブレット端末等の管理及び利用の推進を図る。	タブレットおよび電子黒板の利用環境を整備し、主体的・能動的に学習できるよう情報共有を行う。	A		
生徒指導	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	情報リテラシーの向上を図る。	A		
		授業の充実を目指し、授業担当者は、授業態度・基本的な生活習慣の指導を徹底するとともに、体調・時間管理能力の向上を図る。	A	A	生徒指導部を中心に各学年や校務部と連携し、生徒の規律の遵守とともに基本的な生活習慣を身に付けさせることが概ねできた。特に外国人生徒に対する支援では職員が一丸となり、日本の文化や習慣をあらゆる場面で指導できた。しかしながら保護者の協力を得ることが難しく、学校の指導を理解させるのに苦慮したことも多かった。各種講演会では実施後の「生徒振り返り」を見る限り、その内容や意図するものが浸透しており、十分な効果を得ていることがわ
		各学年と連携して、毎日昇降口での朝の登校指導を実施し、挨拶の励行、服装頭髪等の規則遵守及び遅刻防止に努める。	A		
		教務部及び各学年と連携し、放課後に遅刻した生徒の事後指導を毎日実施し、遅刻防止に努める。また、集会等でＳＮＳについての正しい理解と使い方の指導をする。	A		
		各学年と連携して、定期的に登校時及び下校時の校外指導を全職員輪番で実施し、登下校時の交通マナー及び校外での生活態度等の確立を図る。	B		
		各学年と連携して、ルール・マナーの遵守を徹底させる。ルール・マナーを遵守できない生徒に対しては毅然とした態度で臨み、学校全体で組織的に指導する。	A		
		服装頭髪検査で指導対象となった生徒について、事後指導を徹底する。	A		
		学校生活を送るうえで特に課題のある生徒について、保護者を交えて指導するなど、家庭との連携を密に図る。	A		
		スクールカウンセラーと連携して、精神面で不安や問題を抱える生徒・保護者に対してカウンセリングを実施し、状況の改善を図る。感情をコントロールする能力や自制心の向上を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

		制服の正しい着用指導に重点を置き、特に女子の適正なスカート丈について指導を徹底する。	A		かる。いじめに対する対応が円滑であり、未然防止や初期対応の仕方を引き続き徹底して行うことが肝要である。特別な指導を受ける生徒数が増加したことから、更なる規範意識の向上を図り、学校全体で取り組むことで次年度は3割減としたい。
		外国人生徒に向けた生活指導等の支援の充実を図る。	A		
	喫煙防止、薬物使用防止についての意識を高める。	薬物乱用防止の講演会等を開催して、意識の向上を図る。	A		
		保健体育科と連携して、保健の授業での指導を図る。	A		
	交通マナーについての意識を高め、交通事故を防止する。	交通安全講話を開催して、交通ルール・マナーに対する意識を高める。また、各学年及びHRでも交通ルール・マナーの周知徹底に努める。	A		
		自転車点検及びバイク点検を定期的実施し、安全運転を励行する。	B		
		バイク通学者には安全運転への意識の向上を図るために定期的に声かけを行う等指導を徹底する。	A		
進路指導	早期からの進路意識の醸成を図るとともに、計画的なキャリア教育を実施する。	進路ガイダンスや外部講師による講演、進路別説明会や体験授業を通して、適切な進路情報を提供するとともに、働くことの意義や職業についての理解を深める。	A	A	・外国籍生徒の受験に無理が出てきたので、基礎学力テストを全員受験から、希望者のみの受験としたい。きちんとした診断が出る可能性が非常に低い状況である。 ・2学年行事のスケジュールが厳しい状況なので、インターンシップを8月に希望者対象で行うことも検討したい。
		職業適性検査、クレペリン検査、SPI 検査等を実施し、生徒の適性を把握して試験に備える。	B		
		基礎力テストや模擬試験などを実施し、学力の向上を目指す。	B		
		「進路の手引き」や「進路だより」を発行して情報を提供し、ホームルームや面談で活用できるようにする。	A		
		生徒が必要な情報や資料を得られるように、進路教室を整備する。	A		
	望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。	ハローワークや市と連携して、望ましい職業観・勤労観を醸成し、ミスマッチや早期離職の防止に努めることで、地域に貢献できる人材を育成する。	A		
		2学年でインターンシップを実施し、仕事や自己の適性を知る機会を与える。	A		
		就職希望者に企業見学への参加を促し、一人一人に合った進路の実現を支援する。	A		
		マナー講習会を実施し、社会人として必要な礼儀作法や身だしなみについて学ぶ。	A		
	進路目標の実現を図る。	進路希望調査を実施し、生徒の希望進路や適性を把握し、生徒の実情に合った進路行事を企画する。	A		
		就職試験対策・推薦入試対策として、面接指導や小論文指導を実施する。	A		
		オープンキャンパスや看護体験、公務員講座等の情報を提供し、積極的な参加を促す。	B		
		企業人事担当者、進学先入試担当者とのコミュニケーションを積極的に図り、進路情報を担任や生徒に提供できるようにする。	A		
保健厚生	教育環境・生活環境の美化、整備を図る。	各学年及び各クラス輪番での通学路清掃や校舎内外の清掃をすることによって、地域社会との連携を目指し、美化意識の高揚を図る。また、感染症対策を徹底し、衛生管理に努める。	B	B	・通学路清掃は来年度1回の実施にする。 ・性教育講話について、実施方法を見直し、オンラインで、教室でできるようにしたい。また、外国人生徒への伝え方を検討したい。
		校内の安全管理・点検の実施により、学校事故の未然防止に努める。	B		
	健康維持・増進の意識向上を図る。	検診・検査等の実施を通して、健康管理の大切さを意識できるようにするとともに、受診率の向上に努める。	B		
			B		

別紙様式 2 (高)

		救急救命講習を実施し、人命救助の正しい知識を習得し、適切な行動選択ができる実践力の育成を図る。	B		・防災訓練・救急救命講習はコロナ禍以前の形で実施できた。 ・外国人生徒への対応は、通訳と相談をし必要に応じてSCへ繋げる。
	生命の大切さを学ぶ。	性教育講演会を実施し、性に関する正しい知識の定着や適切な意思決定・行動選択ができる実践力の育成を図る。	B		
		カウンセリングを活用し、生徒の心のケアに努め、自己解決能力の涵養を目指す。	B		
		健康相談を通して、生命の尊さや心の健康の大切さについて学べるようにする。	B		
	防災意識を高める。	防災訓練を実施し、訓練の重要性を認識できるようにするとともに、防災意識の高揚を図る。	A		
特別活動	生徒の読書活動を推進する。	広報活動を充実させ生徒の図書館来館者の増加を図る。	B	B	コロナ渦明け最初の文化祭においては、新しい形態の文化祭として大きく変更した部分があったが、特別活動部の教員を中心として学校が一体となって取り組むことができた。 来年度からの鬼怒商業高との連携に先駆けて、生徒会の交流や、柔道部・吹奏楽部の合同活動を行うことができた。 委員会活動と部活動においては今後内容の精査を務める必要がある。部活動の各部加入率を上げるのと同時に、より生徒が快適で充実した学校生活を送るための策を考えていきたい。
		蔵書や資料を更新し館内を整備し、生徒・職員が利用しやすいよう工夫する。	A		
		季節行事を通して生徒に教養を身に付けさせるとともに、読書への興味・関心を涵養する。	A		
	視聴覚教材の活用を促す。	視聴覚教材を充実させるとともに、授業で活用しやすいよう工夫する。	B		
	委員会活動を通して、生徒の自主性を促進する。	「図書館だより」の制作を生徒に担当させ自主性を促す。	B		
		図書委員を生徒図書委員会の研修会に参加させる。	B		
	資料の収集・保管に努める。	一般紙やPTA新聞、学校内の出版物の保管をする。	A		
	生徒会・各種委員会活動の充実を図る。	生徒会役員と各種実行委員との連携を深め、生徒が主体的に取り組めるような行事運営を目指す。	B		
		生徒会・各種委員会毎に活動計画を作成し、計画的に活動し、活性化を図る。	B		
	部活動の活性化を図る。	新入生を対象に、部活動紹介・見学会を行い、1年生の加入率3割を目指す。	B		
		インターハイ予選前に運動部壮行会を行い、部活動への参加意識の高揚を図る。	B		
	学校行事の充実を図る。	学校行事の内容を改善し、生徒のモチベーションを高めるよう創意工夫する。	A		
		企画・運営を生徒会や実行委員会が中心になって行い、主体的・対話的で深い学びが得られる参加型の学校行事を目指す。	A		
	ホームルーム活動の充実を図る。	学年や各校務分掌と連携し、生徒にペアワークやグループワークを経験させながら、充実したホームルーム活動を実施する。	B		
渉外	本部役員の負担軽減を図る。	年間の活動を精選し保護者・教職員の研修並びに交流を推進すると同時に PTA 本部役員の負担軽減を図る。	A	A	PTA 総会は書面表決で実施しているが表決書回収率のさらにアップする方法を検討したい。本部役員の選出方法について新入生のアンケートだけでなく新2年・新3年からも、参加しやすい方法を考える。 保護者がPTA行事へ積極的な参加ができるよう告知内容や
	PTAによる生徒指導体制の確立を図る。	PTA活動の状況、生徒の現況、学校からの連絡等が広く行き渡るようにする。	A		
	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	欠席・遅刻・早退を減らすために健康管理と規則正しい生活ができるよう指導する。特に、3点時間(起床・就寝・家庭学習開始)を固定できるよう、保護者と連携しながら支援していく。	A		
	PTA活動の啓発を図る。	人間関係づくりの基本である気持ちのよい挨拶を励行し、時と場に応じた立ち振る舞いや言葉遣いができるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

		自己中心的なものの見方・考え方をするのではなく、良識ある社会人へと成長できるよう、きまりやマナーを守り、仲間と協調して自己を高めることへの大切さに気付けるようにする。	A		時期を検討する。
第 1 学年	基本的生活習慣を確立するとともに規範意識を高める。	きまりやマナー違反、及び SNS 上も含めて他者に迷惑をかけるような行動に対しては、毅然とした態度で臨み、学年全体で組織的に指導する。過ちに対し、素直に潔く受け止め解決していく姿勢・態度を育む。	B	A	・素直に潔く受け止める姿勢や態度を育むよう、生徒指導部との連携を密にし、落ち着いたある学校生活を送れることを優先して指導に努めた。しかし、進路、就職、検定に対する意識において、学年全体を巻き込めず生徒間で温度差がでたことは反省点である。 ・科目担当者会議を開き、授業における生徒の様子や、今後の指導についての注意点等を、担任、副担任、授業担当者間で共通理解を図り共有することができた。 ・コモンズさんや筑波大学学生さんに連携、協力いただいたおかげで、外国人生徒のコミュニケーションを円滑に進めることができた。
		身だしなみ(制服の着方・頭髪等)について、日常生活のあらゆる機会を通して指導をしていく。また、必要に応じて生徒指導部と連携を図り、落ち着いたある学校生活を送れるようにする。	A		
		保護者への連絡を密にし、生徒・保護者と教員が意思疎通を図りながら信頼関係を構築し、生徒の望ましい成長を支援する。	A		
	基礎・基本の確実な定着と学習意欲の向上を図る。	学び直しの時間を設け、既習内容の復習と苦手意識を克服させることで、高校への学習にスムーズにつながられるようにする。また、個に応じた指導ができるよう授業担当者間で共通理解を図る。	A		
		授業に集中して取り組めるよう学習環境を整え、授業担当者との連絡を密にとり、家庭学習課題にも誠実に取り組む姿勢を涵養する。	B		
		生徒が主体的に学び、「わかる授業」が展開できるよう教授法や指導内容を工夫・改善する。	A		
	将来や適性について考え、自己に合った進路選択につなげる。	進路ガイダンスや進路見学会、HR での進路学習や面談、PA 活動を通じて、自己理解を深め、自分の進路について真剣に考え、適正な進路選択ができるよう支援する。	A		
		就職試験や各種検定試験に向けて、自主的な学習ができるよう意識の高揚を図る。	B		
		生徒や家庭が個々の希望に合った判断ができるよう、進路の手引きを活用するなど適宜進路情報を提供する。	B		
	外国人生徒への支援に努める。	授業や学校生活全般をスムーズに行うため、県や外部団体と常に連絡をとりながら学年全体で共通認識を図る。	A		
第 2 学年	基本的生活習慣を徹底する。また、規範意識の高揚を図る。	家庭と連携し、欠席、遅刻、早退をせず、毎日規則正しい生活を送れるよう支援する。	A	A	・毎月 1 回の服装頭髪検査を実施し、規範意識の高揚を図ることができた。 ・学年集会や HR 等を利用し、他者を尊重する心や善悪の判断ができるように指導した。 ・生徒の悩みの解決に向けて、生徒の声を傾聴し、状況に応じて SC に相談した。
		公共マナーや社会規範、校則等のきまりを遵守し、日常生活や学校生活が安心して送ることのできる態度を育てる。	A		
		毎日の清掃や奉仕活動、委員会活動や HR での役割に責任を持って取り組む姿勢を身に付けさせる。	B		
		道徳教育を通して他者を尊重する態度を養う。	A		
		学年集会や HR での服装頭髪指導を通して「身だしなみを整え、制服を正しく着る」ことができるようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

		気持ちのよいあいさつが人間関係づくりの基盤となることを自覚させ、時と場に応じた言葉遣いや行動ができるようにする。	B		- 各教科や HR において、個に応じた指導や対応が十分であった。教員間の連携も密であった。 - インターンシップを全員させることにより、勤労観や職業観を養うきっかけになった。 - 検定試験への取り組みが担当教科の先生に頼ってしまい、学年としての取り組みが不十分であった。 - 学校行事が集中してしまった時期があり、事前・事後学習が不十分であった。
		日常のあらゆる機会を通じて、自分と違う価値観を持っている相手に対しても、多様性を認め、尊重し合える寛容な心を育む。	A		
	学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る。	日々の授業を大切に、集中して取り組ませることや基礎的な内容を繰り返し学習させることで基礎・基本の確実な定着を図る。また、個に応じて発展的内容にも積極的に取り組ませ、学力の向上を図る。	A		
		個に応じた指導ができるよう担任と科目担当者間の連絡を密に取る。また、必要に応じて情報交換をしたり科目担当者会議をしたりして、生徒の学習状況に係る共通理解を図る。	A		
	具体的な進路の目標を決定し、その実現に向けて努力しようとする意識を高める。	将来の自分の在り方生き方を見つめ、どのような人生を送りたいかを考えることで正しい進路選択ができるよう HR や面談等を通して支援する。	B		
		インターンシップや進路行事及び HR での進路研究、進路の手引きの活用を通して、職業や進学先に対する情報を得ることで進路の目標を具体化できるようにする。	A		
		就職試験サポートドリルを活用し、就職試験に対応できる力をつけられるようにする。また、各種検定試験に向けて自主的・自発的に学習に取り組めるようにする。	B		
		進学希望者がより高い目標を持って学習に取り組めるよう、進路情報を適宜提供し、個別指導を充実させる。	B		
	部活動・委員会活動や学校行事で中心的役割を担えるようにする。	修学旅行を実施するにあたり、授業や総合的な探究の時間等を活用し、事前・事後学習を行い、教育的効果を高める。	A		
		クラスマッチや自彊祭などの学校行事に主体的な態度で臨ませることにより、自己有用感が高められるようにする。また、部活動や委員会活動の意義を示し、積極的な参加を促す。	B		
第 3 学年	基本的生活習慣の確立及び規範意識の更なる高揚を図る。	欠席・遅刻・早退を減らし、規則正しい生活が送れるよう指導の徹底を図る。家庭とは連携を密にし、必要に応じて保護者と面談するなどして指導の徹底を図る。	A	A	課題 - 外国籍生徒の面談増加や WEB 出願対応に伴い、教員の負担が増大。進路支援の強化が求められる。 - 推薦・調査書作成時期が学校ごとに異なるため、業務負担が集中。効率化が課題。 - 履歴書作成において、手書きの手間を軽減する方法が必要。 成果 - Zoom でのイベント実施が好評。移動なしで授業と両立可能だった。 - 業務や成績の視覚化により、進路指導が明確化された。
		ルールやマナー違反に対しては毅然とした態度で接し、学年全体で組織的に指導できるようにする。	A		
		頭髮服装検査を毎月 1 回実施する。また、言葉遣いや態度等の指導を徹底する。継続して観察・指導を行い、必要に応じて生徒指導部と連携を図る。	A		
		学校と家庭が連絡を密にしながら協力していくことにより、生徒や保護者との信頼関係を構築し、生徒の成長を支援する。	B		
	学習意欲の向上を図るとともに社会人として必要な学力を身に付ける。	一般常識ドリルの確認テストを「総合的な探究の時間」に実施し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに一般常識を身に付ける指導を徹底する。	B		
		社会人として必要な学力の必要性を自覚させ、自ら学ぶ姿勢を育む。必要に応じて授業の担当者と話し合いをおこない、教員間の共通理解を図る。	B		
		教室の巡回指導を実施するなどして、生徒が安心して学習に取り組めるよう環境を整え、落ち着いた中で授業に取り組ませる。	A		

別紙様式 2 (高)

	希望進路実現に向けた指導に努める。	各ホームルームで「進路の手引き」を効果的に活用し、進路意識の高揚を図る。進路実現に向けて個々にあった的確な助言、援助を行うことで、自ら努力する姿勢を育む。	A		・学年での連携やチャット活用が進み、効率的な意見共有が可能となった。 展望 ・早期予約や計画で生徒の要望を反映した行事運営を目指す。 ・外国籍生徒の対応を含め、進路指導体制の効率化を図る。 ・推薦書作成や履歴書作成の業務負担を軽減する仕組みを検討。 ・進路指導の流れをマニュアル化し、共有を強化する。
		希望進路実現の助けになるよう、英検、漢検、数検、情報処理検定、ビジネス計算検定などの資格を積極的に取得させる。	A		
		大学進学希望者に対して、勉強会や模擬試験等を実施し、積極的な進学対策を推進する。また、就職・専門学校の希望者には、必要に応じて勉強会を実施する。	B		
	充実した学校生活を送る指導に努める。	クラスマッチや自彊スポーツフェスティバルなどの学校行事に積極的に参加させ、振り返りの時間を十分とることで級友とのコミュニケーション能力を高められるように指導する。	A		
		担任との二者面談やスクールカウンセラーとの面談を活用して、悩みを抱える生徒の問題解決の援助をする。	A		

※ 評価規準：A；十分によい　　B；よい　　C；やや不十分　　D；不十分